

COLLEGE INFORMATION
甲子園短大通信
 甲子園短期大学 発行

〔第一部〕
 新成人の門出を全学を挙げて祝福する式であると同時に、卒業を間近にひかえ、社会に飛び立とうとする二回生が、自らの責任と義務を再確認する厳粛な誓いの場でもあります。二回生は、正装に身を包み、新成人に相応しい引き締まった面持ちで、



一月十三日(金)、久米知子理事長先生のご臨席を賜り、「平成二十三年度学内成人式」を実施しました。学内成人式は、本学独自の行事として、昭和五十四年から行われ、今年度で三十三回目を迎えます。

平成二十三年度 学内成人式
 ～厳粛な中にも心温まるメッセージ～

〔第二部〕
 学内成人式第二部では、マリンバ、炭琴奏者の山口公子氏を講師として「新成人へのメッセージ」と題しての講演会を行いました。

第一部の式典に臨みました。成人となる先輩たちをお祝いするため一回生も参加し、終始厳粛な雰囲気の中で執り行われました。本学好信学長からは、「本学で身につけた校訓三綱領を社会の中で実践し、周囲に伝え広げながら、自信を持って活躍されることを期待しています。」との祝辞が述べられました。それぞれの夢に向かって新たに旅立つ二回生に対して、温かい励ましのエールとなりました。それに応えて、幼児教育保育学科の高橋美紗都さんが学生代表として、学内成人式を挙げていただいたお礼の言葉とともに、「成人としての自覚と責任をしっかりと心に留め、自立した一人の女性として社会に貢献できるように力強く歩んでいきたいと思えます。」と若き溢れる「誓いの言葉」を述べました。記念品として、二回生全員に台付袱紗が贈られ、生活環境学科の辻本鮎美さんが代表していただきました。

山口公子氏は大阪音楽大学を卒業後、毎日国際サロンでのリサイタル、各地の招待演奏や医療現場やユネスコなどのチャリティコンサートにも多く出演されています。一九九〇年に初めて炭の音色に出会い以来日本各地のみならず、イギリスでも公演したり、FMあまがさきの市民パソナリテイとして活動や、「備長炭花げしき」のCMにも出演するなど、活躍されています。舞台上にマリンバと炭琴をセットし、お話と演奏を織り交ぜながらの一時間の講演でした。ご自身の炭との出会いや、そこから広がる人とのつながりおよび出会いの大切さなどを話されました。



山口 公子氏

第一部では、厳粛な中、成人となった私たちの「誓いの言葉」を述べさせていただきました。これからは大人の女性としての自覚と責任をもつていきたいと強く感じました。第二部では、「自ら求めて得る出会いの大切さ」を改めて実感することができ、また周りの方々への感謝の気持ちを持つことを忘れずに過ごしていきたいと思えました。マリンバによる演奏や普段聴くことのできない炭琴の音色に触れることは、貴重な機会となりました。成人となった私たちのためにこのような場を与えてくださり、心から感謝しております。

学内成人式に出席して
 学生代表 高橋美紗都



音色に魅了され...



幼児教育保育学科 上田 智佳

ホールや教会に響き渡る優しい音色、「ハンドベル」。子どもの頃からその音色に魅了され、ハンドベルクワイア(ハンドベルを演奏するグループのこと)に憧れていました。

幸運なことに私の通っていた中学・高校には、ハンドベル部がありました。友人に声をかけメンバーを集めて活動を始めました。

ハンドベルという楽器は、イギリス発祥の楽器です。一つの音に対して一つのベルのため、何か曲を演奏したいと思うと三十から四十個のベルを揃えなくてはなりません。高い音のベルは小さくて二百グラムほどから、低い音に至っては非常に大きくなって五キログラム以上の重さになります。

一人が二個から数個のベルを持ちます。私は比較的低い音を三・四個受け持っていたので、持ち替えは大変だったし、ベルが重かったので練習の後には指にあざができていました。

ハンドベルの難しいところは、自分の受け持ちの音を打ち損なわないようにすることです。わずかにタイミングがずれたら、二音でも抜けたりすると、次の音に

My Favorites

繋がらずメロディが崩れてしまいます。音を聴き打つタイミングを計るにはかなりの集中力が必要です。全員で一つの曲を演奏するわけですから、チームワークが非常に大切です。心が乱れると、音楽までもが乱れてきます。また、一人が休むと、その人の音が抜けてしまい音楽が途切れるので、曲が成り立ちません。グループに迷惑をかけるないようにする責任感や信頼関係などを学びました。

レパートリーが広がると、文化祭はもちらんのこと、様々な場所で演奏をしました。

病院や高齢者施設では、「ありがとう。」と声をかけていただき、音楽をおして励まされる人がいることを知りました。

卒業して五年ほど過ぎると、卒業生のハンドベルのグループができました。ベルの音と音楽に集中できる時間が好きで、それから数年間再びベルの音色に浸りながら文化祭や慰問コンサートに参加しました。一度にたくさん音を積み重ねることが出来るベルならではの響き。決して派手ではありませんが、華やかでありながら優しく包み込まれるような音色をしています。皆さんも機会があれば、ぜひ聴いてみて下さい。



卒業研究発表会が
開催されました

二月三日、平成二十三年度卒業研究発表会が開催されました。一・二回生合同の発表会場で、二回生が一年間の成果を発表しました。

論文部門では、生活環境学科から「食と健康」に関する論文二編および「介護・福祉」に関する論文二編と事例研究二編。また幼児教育保育学科から論文一編の口頭発表がありました。どれも発表者の独自の問題意識と、パワーポイント等を用いた効果的なプレゼンテーションが組み合わさり、参加者から多数の質問がありました。



実技部門では、両学科それぞれの特徴を生かした立体制作、刺繍や布クラフト、アニメ制作など、多彩な十一



作品が展示されました。

さらに、昨年に引き続き、介護の事例研究を分かりやすくポスターおよび冊子にまとめたもの九点も展示されました。展示会場では、これらの趣向を凝らした作品に多くの学生が熱心に見入っており、手にとって使用したりしていました。

音楽部門では、幼児教育保育学科の四名のピアノ独奏とともに、今年の新しい試みとして学習成果発表も行いました。授業履修者による合唱が披露され、いずれも好評を博しました。

論文・実技・音楽のどの部門の卒業研究に対しても、「とても興味があった」「工夫に感心した」「聴いていて感動した、癒された」などの感想が多数寄せられました。

当日の司会進行はすべて二回生のクラス委員が担当し、行事の運営を学ぶよい機会となりました。



甲子園短大通信 第72号
 (編集・発行)甲子園短期大学広報委員会
 〒663 8107 西宮市瓦林町四一五
 TEL:0798-65-1100 FAX:0798-65-7191
 http://www.koshien-c.ac.jp

「生活環境学科は今」 地域に学び、地域の力に

生活環境学科では、阪神間で活躍されている先生方や施設から、実習、インターンシップ、フィールドワークや特別講義を通して教えていただくことを重視しています。

ブライダル企画コース一回生の学生が、十月から十一月の土日を利用して、神戸レストランウェディング「ブルーミンメド」でインターンシップを実施しました。スタッフの一員として、お迎えの準備から、清掃、フラワーアレンジ、披露宴会場の準備など初めての体験をさせていただきました。披露宴では、食事や飲み物を運ぶなど、やりがいや責任を感じたインターンシップとなりました。



食と健康コース一回生は、管理栄養士と和食料理店のオーナーでもあるト部吉恵本学非常勤講師に、本格的な和食づくりを教わっていただきました。プロの技を間近で見ることができた貴重な経験でした。

また、介護福祉専攻一回生は、社会福祉法人協同の苑「六甲アイランドにの家の家」のアサヒビール西宮工場見



現場での実践力を身につけるため、幼児教育保育学科では、今までに加えて新たな取り組みを行っています。一回生は、保育所へインターンシップに行き、保育者になる意欲を高め、子どもの発達などに関心を深めて学んでいます。十一月に

「幼児教育保育学科は今」 保育者としての実践力アップ

現場での実践力を身につけるため、幼児教育保育学科では、今までに加えて新たな取り組みを行っています。一回生は、保育所へインターンシップに行き、保育者になる意欲を高め、子どもの発達などに関心を深めて学んでいます。十一月に



十一月に

平成二十三年度 大学祭が開催！

十月十六日(日)、テーマ「輝く未来♡つながる絆」Happy Smile Koshien」のもと、元気で心温まる大学祭が開かれました。

学院食堂では、学生各クラスの創意工夫を凝らした模擬店と、職員も協力したバザーに加え、昨年好評だった「やまとなでしこ選手権」の二〇一〇版新企画イベントが盛況でした。「りんご早むき」、「フラフープ」、「お手玉」の三種目で、技と昔懐かしい遊びを競い合いました。

クラスメイトの健闘に大きな声援を送る学生たちの姿は、普段見ることのできない一面がキラリと輝いたひとときでした。保護者など一般来場者の参加もあり、良いイベントとなりました。園芸実習場での植木市は、園芸部がタネから育てた苗を求めて、地域の方々がたくさん来てくださいました。



学に参加しました。外出援助をさせていただきます。コミュニケーションの大切さを学びました。介護福祉専攻二回生は、五週間に及ぶ施設

実習も無事終了しました。地域の福祉施設から学ぶ最後の実習でしたが、実習先から高い評価を得ることができました。地域から学び、就職やボランティアなどを通して地域の力になることを大切に、今後とも、人材養成を行っていきます。

現場での実践力を身につけるため、幼児教育保育学科では、今までに加えて新たな取り組みを行っています。一回生は、保育所へインターンシップに行き、保育者になる意欲を高め、子どもの発達などに関心を深めて学んでいます。十一月に



十一月に

また、同窓会総会にもたくさんの方々が訪れ、旧交を暖めていました。本館で行われたステージ発表では、一回生各クラスによる歌やダンスなど多彩なプログラムが続き、元気いっぱいのパフォーマンスが披露されました。



若さいっぱいクラスパフォーマンス

教員タイムでは、会場参加型ゲームと「アニメソングメドレー」で親子連れの来場者にも喜ばれ、会場中が大合唱。最後は二回生の各クラスの趣向を凝らしたパフォーマンスで、多めに盛り上げてフィナーレを迎えました。全員参加の感動的な中、次年度の成功を誓い合いました。

今年も地域の方々を含む約三百名もの来場者を迎え、在校生、卒業生そして教職員の思いがひとつになった大学祭でした。

最後になりましたが、この日学友会が「台風十一号被災者支援」の募金活動を行い、日本赤十字社を通じ被災地に届けられました。ご協力いただきました方、本当にありがとうございました。

資格・検定に挑戦

生活環境学科の多くの学生は「医療管理秘書士・診療実務士」の資格取得を希望しています。十月と十一月に実施した「医療管理秘書士・診療実務士」試験では、二十七名が合格し、その内四名は診療実務士一級を取得しました。受験には医学や保険請求事務などの専門知識と実演の科目履修が必要で、冬場暗くなる五限の授業や長時間の集中講義、対策講座を経ての合格は努力の賜物といえます。

幼児教育保育学科では今年度より「幼稚園・保育園のためのリトミック二級指導資格」が取得可能になりました。リトミックは、ことば・数・感覚を養うと同時に、音楽の基礎となる能力を「楽しい音楽遊び」を通して育む総合教育で、二級指導資格は、主に三歳児を指導することができます。二十名の学生が「リトミック」を履修し、リトミック教育センターが行う試験に挑戦する予定です。

勉強方法などをサポートしている漢字能力検定試験とワープロ技能検定試験を学内で実施しました。十月二十八日に実施した漢字能力検定には準二級に二名が合格しました。十二月一日に実施したワープロ技能検定二級は一名が、七日に実施した三級は四名が合格しました。取得した資格・検定は、学生自身に応用力や集中力、持続力など多くの力を与えてくれたことと思います。今後、自己研鑽を積み、さらに上級を、また新たな資格・検定に挑戦してもらいたいものです。

学院創立七十周年記念 「短大書道展」を開催

年末恒例となった「甲子園短期大学書道展」は、十一月二十九日(火)から十二月四日(日)、西宮市立北口ギャラリーで開催されました。

今年学院創立七十周年を記念して、本学元教授木村知石先生の御作品五点を出品いただきました。中でも先生が昭和三十年代に揮毫された「校訓額」は、初めて目にするという人も多く、その重厚さに圧倒され、見入る人も多数ありました。



学生の作品は、二回生は卒業研究として、一回生は授業の一環として、夏休みの錬成会で額に汗して制作した作品の発表の場です。一方、卒業生の中には卒業後も研鑽を積み、読売書法展や毎日書道展で活躍している人もお

り、幅広いジャンル、年代にわたり、層の厚さを感じさせる作品群でした。さらに中川攝陽、久米翠娥両先生の協賛出品もあり、いずれも大力作揃いでした。会場には、見応えのある作品とともに、御祝に届けられた生花が華やぎを添え、好評の内に会期を終えました。



◆学友会新役員決まる◆

十二月十六日(金)、学生総会が開かれ、平成二十四年度の学友会役員が承認されました。活躍を心から期待します。

- 会長 吉盛 智子 生活環境学科
- 副会長 大久保友葉 生活環境学科
- 副会長 津曲 冴 幼児教育保育学科
- 総務 中村真由美 生活環境学科
- 総務 井手 舞美 幼児教育保育学科
- 書記 富谷 成実 生活環境学科
- 会計 黒田 優 生活環境学科